

43号のトピックス

リハビリテーション・ケア合同研究大会in神戸



「重度認知症の妻との在宅生活を再獲得できた一症例」
～メディカルファミリーセラピーを用いて～
作業療法士：小野内陽子

10月1日から3日、リハビリテーション・ケア合同研究大会 神戸 2015に参加しました。当院からは2演題発表、講演や他院からの発表はこれからの臨床に即活かしていきます。



「できない栄養指導で終わらせない」
管理栄養士：後藤智恵

押富さん講演会

10月5日、医療倫理の研修として、「意思決定支援について」の講演会を行いました。講師は元職員で作業療法士の押富俊恵さん。医療者側と患者側の両方の立場に立つことで見えたもの、考えたこととお話していただきました。

研修に参加した職員の感想をインタビュー・・・

① 印象に残った言葉は？ ② 業務に変化はありましたか？

① 意思決定

② 改めて患者様の意思を尊重できるように考えたいと思った。

2年目 理学療法士

① リハビリのプロ

② できるだけ多くの選択肢が提案できるよう考えるようになった。

1年目 理学療法士

① 選択

② 安全面、介助量軽減ばかりを優先し、患者様の行動を制限してしまっているのではと思った。患者様目線で目標を考えていきたい。 1年目 作業療法士

① 自分にとって当たり前や普通でも他人にとってはそうでないこともある。

② その人がどう考えてその結論になったのかをしっかりと確かめようと意識するようになった。 1年目 医療相談員

① セラピストと患者の両者を経験しての気づき、今までは理解しているつもりだった

② なぜ患者様がそう思うのかを深く考えるようになった。セラピストとしてはこうしたいけど、患者様は実際にはそうではないこともある。 1年目 理学療法士

